

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校評価書

堺市立野田小学校
校長 安藤寿美子

中学校区におけるめざす子ども像
自ら学びあきらめずに問題解決する子

令和6年度 重点目標
○「学びを進められる子ども」の育成 ○ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現

<p>「確かな学び」の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおむね自らの考えを持ち自分の意見を発表できるが、発表する児童に偏りがある。安心して発言できる学級づくりを継続しながら、主体的に学習に参加する児童を育成していく。 ・令和5年度の全国学力・学習状況調査や大阪府学力調査の診断結果からは、全国や大阪府の平均正答率を上回るものが多くおおむね成果があがっているが、無回答の割合が堺市平均より高い問題もあるため ICT 活用を工夫していく。 ・学習の土台となる読書指導については、令和5年度にかなりの成果があったので、家庭学習の啓発とともに継続していく。 	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直で明るく優しい子どもが多く、一般的な規範意識は育っている。 ・真面目で何事にも一生懸命取り組むが、自信のなさから失敗への恐れや挑戦するたくましさに課題があるため、学級づくりなど学校生活全体を通して自尊感情を高めていく。 ・体育的な活動や行事には積極的に取り組むことができるが、コロナ禍の学校における活動の制限や家庭における活動不足などの影響もあり、明らかな体力低下がみられる。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学力向上	教育課程の円滑な実施	学びのコンパスや教科担任制に向けて、教育課程の編成を見直しながら教育活動を行う。	示された学習内容を指導し、85%以上の子どもが「授業がわかる」「学校へ行くのが楽しい」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	2・3 学期末	○ インフルエンサーを招聘した学びのコンパスについての研修を行い、新たな教育について取り組むことができている。	○ 授業が分かる：79～96%、学校へ行くのが楽しい：85～94%の子どもが肯定的回答。	○ 「授業が分かる」という物差しを新しい学びに沿うように検討することも必要ではないか。
		ICTを活用した「学びを進められる子ども」の育成	●読書指導の充実や野田スタンダードによる学習規律の徹底を図る。	授業時間以外に 30 分以上読書をしている児童の割合が、昨年度と同等以上である。また、学期が進むにつれ、学習のきまりを守っているという肯定的回答が増加する。	87 調査学習のきまりアンケート実施状況	年度末	○ 毎学期読書ウイークなどの取り組みを各学年の実態に応じて行っている。また野田スタンダードがどのクラスでも実践できるように年度初めの研修全体会などで周知している。	○ 各学年の実態に応じて読書活動推進の取り組みをしたり学級文庫の本を一新したりしたことで、学校生活の中では意欲的に読書をすることができた。家庭では読む本や時間がなかったり、何らかの取り組みがないと継続して読書ができない児童がいたりする。97%の教員が ICT を授業において活用したと回答している。ICT の活用によって、興味関心を持って学習に取り組めたり、学習が苦手な児童の支援につながっていると感じる。	◎ 読書する習慣ができてきて、学校でどんな本を読んだか教えてくれるようになった。家庭での経験が難しい場合は、職員がロールモデルとして体験していくことも必要。めあてをしっかりと持ち最後に振り返りをしているので、とても分かりやすい授業をしていると思う。自由進度学習を取り入れてみるのもよいのではないか。
			★全教育活動を通して、カリキュラム・マネジメントを活用した「思考力・判断力・表現力」の育成や教職員の取り組みを共有する。	全教員が研究授業を行い、80%の教員が「『思考力・判断力・表現力』を向上させる取組を研修し、子どものつづやき、発言、ノート、制作物等から成果を感じ取ることができる」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	○ おおむね順調に研修が進んでおり、児童の発言やノート、提出物などから思考力・判断力・表現力が向上しているという成果を感じている。	◎ 97%の教員が ICT を授業において活用したと回答している。ICT の活用によって、興味関心を持って学習に取り組めたり、学習が苦手な児童の支援につながっていると感じる。	◎ 読書する習慣ができてきて、学校でどんな本を読んだか教えてくれるようになった。家庭での経験が難しい場合は、職員がロールモデルとして体験していくことも必要。めあてをしっかりと持ち最後に振り返りをしているので、とても分かりやすい授業をしていると思う。自由進度学習を取り入れてみるのもよいのではないか。
			●ICT の授業実践を共有することで、どの授業でも日常的に ICT を有効活用した授業を行い、学習が苦手な児童の支援につなげる。	80%の教員が「児童一人につき 1 台のパソコンを授業において活用した」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	○ 教科や単元に応じて活用の仕方を工夫し授業を行っており、効果的に活用するために活用例などを共有している。	◎ ICT はすぐ活用できていて、家でも抵抗なく進んで使用している。ペア学習やグループ学習が自然とおこなわれているのは素晴らしい。人の考えを聞き自分の考えを伝え、自他ともに認めあえる子どもになってほしい。	
			★授業の UD 化（視覚化・焦点化・共有化）や特性理解（アセスメント含）の視点を取り入れ、安心できる学習環境、わかる・できる授業づくりに取り組む。	全教員が「ユニバーサルデザインや特性について理解し、意識して指導に取り組んでいる」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	○ 時間割や予定表で一日の流れを確認したり、立ち位置やハンドサイン、準備物の刑事をわかりやすくしたりして、視覚的な支援を心がけている。	○ 伝え合うことを通して、各教科の資質能力の向上、思考力・判断力・表現力を身につけさせることができた。	
			●主体的に考えを伝えあうことで、各教科でつけた資質・能力の育成を図る。	80%以上の子どもが、「授業中考えたことを伝えようとしている」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	△ ペアやグループでの伝え合いなどの授業でも自然に行われているが学年によって課題がある。	○ UD 化を 98%の教員が取り組んでいる。今後も自己肯定感の向上への取り組みを学校全体で共有していく。	
豊かな心・健やかな体	豊かな心	「自らを律し、自分も人も大切にできる子ども」の育成	●自尊感情を高め、多様性を認め合える集団を育成しながら子どもの変容を記録・共有し、多角的な理解につなげる。	80%の教員が「指導計画に基づくピア・サポートを実践し、少しでも効果があった」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	○ グループワークで自分の話を聞いてもらう体験や相手を尊重して話を聞く経験をつみ、定期的には児童の様子を共有する時間を設けている。	◎ 94%の教員が肯定的回答。ピア・サポート以外にも特活や道徳などの時間を活用し、多様性を認め合える集団づくりに取り組んだ。	◎ 自尊感情を高めるために、いかに子どもの特性を理解しその良さを活かすかを、職員や保護者が理解する必要がある。
		学校生活のきまりについての意義を理解し、守る態度の向上を図る。	85%の教員が「月別目標によりきまりを守る態度の向上が見られた」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	○ テレビ朝礼などで月別目標の啓発をし月末には各クラスで振り返りのアンケートをしている。	○ 85%の教員が肯定的回答。年間目標については一定の効果が見られた。	○ 挨拶の苦手な子が少しでも減ってくれるといいなと思う。	
	健やかな体	健康・安全に対する意識と体力の向上	学校生活全体での活動量確保や、自ら運動することの良さを知り進んで体を動かそうとする態度を育成する。	83%の教員が「活動量を保障した体育科学習や運動することの楽しさや大切さを子どもたちが理解できるように指導している」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	△ 体力テストの結果、敏捷性と持久力が低かったため、冬季は体育の授業にリズム縄跳びを取り入れ体力の向上をめざす。	◎ 92%の、教員が肯定的回答。引き続き学年の実態に応じた学習を行う。	◎ 先生のサポートがよいので運動が好きな子が多いように思う。体力に個人差はあるが、体育大会ではどの子も一生懸命取り組んで自分の良さを発揮していた。
			食育や学校検診の実施などを通して自らの健康・安全に関心を持ち、免疫力を向上しようとする意識をはぐくむ。	80%の教員が、「病気・けがの予防や免疫力向上について指導している」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	○ 栄養教諭を中心に食育の授業を行い、各検診では事前に目的を伝え結果については自分の健康について考えられるよう声掛けを実施した。	◎ 95%の教員が肯定的回答。給食時間に月ごとの啓発動画を視聴したり、学校安全の日は児童も参加して点検を行いけがの予防につなげている。	◎ けがをしないう気を付けるようになった。
連携	保護者啓発	家庭学習習慣の確立	家庭学習の内容について、具体例の紹介や学級懇談会などの対面する機会を活用して保護者啓発を図る。	85%の教員が取組を、65%の保護者が子どもの家庭学習の状況を肯定的に評価する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	○ 家庭学習の手引きを年度始めに配布し学級懇談会でも啓発している。大部分の学年で自主学習を行い、おすすめの内容を指導している。	△ 86%の教員、61%の保護者が肯定的回答。	○ 根気よく（複数回）、保護者に家庭学習の意義を伝え続け、啓発をしてほしい。
		教育活動の発信	HP・各種通信や学級懇談会などの来校する機会をいかして、教育活動の様子や学校の現状を発信する。	全教員が「何らかの手段で、教育活動の様子を発信した」と回答する。	学校教育アンケート実施状況	年度末	△ 学校協議会や地域の会合などで、教育活動の様子や学校の現状を定期的に伝えているが、学級懇談会への参加率が低いのが課題である。	○ 学びのコンパスなどの新しい教育や ICT 化が導入される中、参観などを活用して発信している。	○ HP を見ると学習の様子や給食メニュー、イベント、様々な取り組みがよくわかる。

校長より (年度末)
 学びのコンパスなどの新しい学びについて取り組んだ結果、子どもたちは想定以上に楽しんでいる状況がある。今後も教科や単元・タイミングを見計らいながら子どもが「学ぶ」場面を作り出し、大きく変容する社会に対応できる子どもを育成するために、ICT などの手立てを子ども自身が活用できるように、授業の中での取り入れ方を工夫していく。
 学校教育全体について、おおむね目標を達成できている。成果を職員と共有しながら、今年度の課題をもとに来年度の目標を設定していく。

学校関係者評価者から (年度末)
 先生方が、新しい学びも含めて子どもたちのために頑張っているのが分かる。ICT の活用は今後も必要だが、対話力やコミュニケーション力も同時に伸ばして欲しい。